

切り絵 満州族の伝統子に伝える

「紙をたたんで、こうやってちぎるんだよ」

中国吉林省通化の快大茂鎮中心小学2年3組の教室で、美術の張傑先生(35)が、赤い色紙を使い、満州族伝統の切り絵の手本を見せた。色紙のあちこちをちぎる様子を、児童は不思議そうに見つめる。張先生が色紙をひろげると花模様のできあがり。「すごい！」と歓声が上がった。

満州族の佟昕洋さん(8)は「満州族の伝統とは知らなかった」。漢族の蘇家毅さん(8)も「思いもよらない模様ができて楽しい」と笑った。

中国各地にある切り絵の中で、満州族のものは素朴で力強く、昔

ながらの生活や風習を描くのが特徴。はさみで切ったり、手でちぎったりして模様をつける。



張先生は漢族だが、近所の満州族のおばあさんが切り絵を楽しむ姿を見て育った。通化は古来満州族の居住地で、この小学校も満州族の児童が多い。張先生は特色ある授業がしたいと切り絵に注目し、専門家から学んで03年に授業に採り入れた。教え子から全国コンテストの優勝者も出ている。

満州族の人口は約1千万人で、中国に住む55の少数民族の中で2番目に多い。かつて清朝を興した民族だが、今は満州語を話す人もごくわずかだ。張先生は「この地に昔から住む満州族の暮らしぶりを、切り絵を通して伝えたい」と話した。

(西村大輔)

満州族の切り絵の基本的な手法を児童に教える張傑先生(中央) 〓

中国・通化、西村写す

ちぎる @ 通化